



【課題】

- ・小中学校のタブレットの効果的利活用
- ・SDGs教育の専門性
- ・自地域独自の教育プログラムの創出

【提案】

デジタル技術を活かして

- ・地域独自の教育コンテンツを作る
- ・新しい学びのスタイルを生む
- ・何度も現場に行かなくても学べる



【期待できる効果】

- ・その地域の課題や特色を『教室に居ながら知ることができる』
- ・特色を通じて、地域を見つめ直し、課題をとらえ、地域を考え、郷土愛を生む
- ・先生の負担軽減と省力化をしつつも、教育効果が大きい（子供自身の創造力産出）

【具体的な内容と期待できる効果】 ※中身は地域性により変更！！

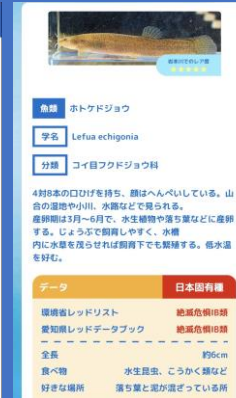
■「AIを使って生き物の生態を調べよう！地域独自のデジタル環境教育」

●森林：山編



普段は見られない夜行性動物の生態をデジタル技術で見られるようにする。子供にセンサーカメラ（AI技術）の説明をし、子供たちの発想で、動物が出そうな森林内に1台カメラを設置。自らの考えを述べ、協議して1台に決める過程は非常に重要。生き物の生態を通して、森の重要性、価値、人との関わりなどを学ぶ森林教育のひとつ。

●河川：川編



スマホ・タブレットのカメラを生き物にかざすと、生き物種を判定し、その特徴を学べるアプリを開発し、実践的な河川教育のツールとして活用可能。外来種問題、生き物生態系の学びにより、河川、排水、環境について学びを深める環境教育。（先生に生き物知識なしで教育効果を高める）